

関西中国書画コレクション展開催記念

国際シンポジウム

関西中国書画コレクションの過去と未来
—収集から一世紀、その意義を考える—

要旨集



2011年10月22日(土)・23日(日)

於 泉屋博古館 講堂

主催 関西中国書画コレクション研究会

10月22日(土)

基調講演

近代における関西の中国書画コレクション

曾布川寛(京都大学名誉教授)

パネル1 関西に流入する中国書画—コレクターとその周辺

阿部房次郎の蒐集をめぐって

弓野隆之(大阪市立美術館)

完顔景賢のコレクションについて

下田章平(茨城県立水戸第二高等学校)

大正期中国書画蒐集の指南役としての内藤湖南—その見識と実践

陶徳民(関西大学)

パネル2 日本における中国書画コレクションの諸相—比較の視点から

日本近代における文人文化熱とその消長—財閥の美術蒐集を軸に

宮崎法子(実践女子大学)

槐安コレクションと聴水閣コレクション—高島菊次郎と三井高堅

富田淳(東京国立博物館)

幕末期における東アジア絵画コレクションの史的位置—近代との比較

板倉聖哲(東京大学)

10月23日(日)

パネル3 台湾、香港における中国書画コレクション

台北故宮における近現代書画の収蔵

陳階晋(国立故宮博物院)

従文物館蔵品管窺近代香港書畫收藏的淵源—以簡氏斑園與利氏北山堂爲例

[文物館の収蔵品に見る香港の中国書画コレクション—簡氏斑園と利氏北山堂を例に]

李志綱(香港中文大学文物館)

特別講演 收藏家的責任—我的中國書畫收藏歷程 [收藏家の責任—私の中国書画收藏の道のり]

石允文(中国書画收藏家)

パネル4 欧米に広がる中国書画コレクション

John C. Ferguson (福開森) and His Short-Term Success as a Buyer of Chinese Paintings for American Museums, 1912-1917

[アメリカの美術館の中国絵画収集におけるジョン・C・ファーガソンの活躍]

Lara Netting(メトロポリタン美術館)

柏林的中國繪畫收藏—過去、現在與未來 [ベルリンの中国絵画コレクション—過去、現在、未来]

王静靈(ベルリン自由大学)

パネル5 名品が語る中国書画コレクション

収蔵来歴からみた(伝)董源「寒林重汀図」の史的意義

竹浪遠(黒川古文化研究所)

「安晩帖」をめぐって—日本における八大山人の受容と鑑賞

実方葉子(泉屋博古館)

基調講演

近代における関西の中国書画コレクション

曾布川寛（京都大学名誉教授）

パネル 1 関西に流入する中国書画—コレクターとその周辺

阿部房次郎の蒐集をめぐる

弓野隆之（大阪市立美術館）

大正から昭和にかけての関西の中国書画コレクションは、主として、犬養毅の人脈によって、内藤湖南・長尾雨山・羅振玉らがブレンになり、博文堂原田悟朗が仲介して形成された。収集家には、関西では上野理一・小川為次郎・本山彦一・黒川幸七・藤井善助ら、東京では菊池惺堂・山本悌二郎らがいた。阿部房次郎（1868 - 1937）のコレクションもその一つで、昭和 18 年（1943）に寄贈を受けて以来、現在に至るまで、大阪市立美術館の収蔵品の中核である。本発表では、阿部の伝記、収蔵品図録『爽籟館欣賞』の序や解説、鶴田武良らによる原田からの聞書、そして現在作品に附せられて残っている跋や箱書などの資料を用いて、阿部の蒐集の過程とコレクションの特色について考察する。

完顔景賢のコレクションについて

下田章平（茨城県立水戸第二高等学校）

完顔景賢（1875-1931）は、清末民初期到北京における書画・碑帖・古籍版本の屈指の収集家であった。伝張僧繇「五星二十八宿神形図巻」（大阪市立美術館蔵）・伝閻立本「北齊校書図巻」（ボストン美術館蔵）・蘇軾「寒食帖」（台北故宮博物院蔵）のような中国書画の優品、2011 年 5 月の中国嘉徳主催のオークションにおいて 4830 万元で落札された『両漢策要』が完顔景賢の旧蔵品であったことから、当該期の収集家としての存在意義の大きさを窺うことができる。このシンポジウムでは、既発表の論考をもとに完顔景賢の家世、収蔵内容や傾向、その目的について確認し、彼のコレクションが日本にもたらされた経緯についても検討したい。

大正期中国書画蒐集の指南役としての内藤湖南—その見識と実践

陶徳民（関西大学）

大正期の日本人による中国書画の蒐集については、京都大学教授の内藤湖南が重要な指南役として活躍していた。中国美術品における書画および世界美術史における中国書画の位置を高く評価したこと、義和団事件・辛亥革命以降の中国書画の海外流出を日本による東洋文化の保存と世界発信の好機と捉えたことなどにその優れた見識が現れている。その意見は、大阪朝日新聞社の上野理一社主など関西の有力者の蒐集活動を強く促し、また彼自身の『支那絵画史』という著述に結実した。そして、智永の「千字文」を習った湖南自身の書も見事なものであり、1910 年北京の端方自宅で見た「唐寫本説文残巻」を 17 年後についに入手したその収集家としての執着心も並々ならぬものであった。

パネル 2 日本における中国書画コレクションの諸相—比較の視点から

日本近代における文人文化熱とその消長—財閥の美術蒐集を軸に

宮崎法子（実践女子大学）

幕末に至り、中国文人文化への熱い思いは頂点に達し、漢詩文や書画、煎茶や古琴を嗜む風潮は、大坂、江戸を中心に日本各地に広まっていた。それは、近代における中国書画蒐集の大きな原動力となったが、同時に、近代の政治的社会的な大変動のなか変化も見せた。財閥系コレクションを例に概観すれば、彼らの社交の場が、明清文化に由来する煎茶会から茶の湯へと移行したことと、各時期の中国文物蒐集は連動している。それはまた、近代における「日本美術」の確立と表裏一体の関係にあり、幕末の明清画への傾倒から、宋元画崇拜へと、中国画の評価にも変化が見られた。本発表では、東京の三菱、三井財閥の書画コレクションを軸に、関西における文人文化熱を対照させつつ、近代日本における中国書画蒐集の一端を、上記のような視点から具体的に示したい。

槐安コレクションと聴氷閣コレクション—高島菊次郎と三井高堅

富田淳（東京国立博物館）

高島菊次郎氏の槐安居コレクションは、これまで購入の経緯や価格を示す資料がなく、コレクションの形成過程を把握しえなかった。昨今、ご遺族よりご提供いただいた菊次郎氏の「手控え帳」には、不完全ながらも購入の経緯や価格、あるいは旧蔵者に関する記述があり、高島コレクション形成の一斑を窺うことができるようになった。一方、三井高堅氏の聴氷閣コレクションについては、その形成過程がある程度知られていたが、このたび宋拓の名品に付属する資料から、より具体的な入手の事情が判明した。槐安居コレクション、聴氷閣コレクションについて、最近の調査から得られた新知見を紹介したい。

幕末期における東アジア絵画コレクションの史的位置—近代との比較

板倉聖哲（東京大学）

近年、谷文晁一門の粉本・模本類 1700 点以上の存在が確認された。去年より、その悉皆調査を継続中だが、その描写は原本に忠実に表現も彷彿とさせるため、縮図とは異なり、確定が可能である。又、その中には多くの所在不明のものを含んでいる。谷文晁は単なる一画家ではなく、松平定信の意向で国家的なプロジェクトとして一門を率いて調査を行っており、東京芸術大学・田原市美術館等に所蔵される既に知られていたものと合わせて、幕末期における中国・韓国絵画の収蔵状況をある程度知られることになる。本発表では、調査結果に基づき、『集古十種』等で知られている価値評価を再定置し、さらにそうしたコレクションや絵画史意識が近代日本にどのように引き継がれたか、もしくは断絶しているか、を諸側面から検討し、近代日本における東アジア絵画コレクションの基底を窺ってみたい。

パネル 3 台湾、香港における中国書画コレクション

台北故宮における近現代書画の収蔵 [臺北故宮新添藏的近現代書畫]

陳階晋 (国立故宮博物院)

国立故宮博物院成立於 1925 年，所藏書畫承自清廷內府，多數精品の入蔵主要集中於乾隆朝（在位 1736-1795）。此後，直到 1949 年隨國民政府遷移臺灣爲止，肇因於時代的遽變，在數量上並無增添。1965 年台北外雙溪故宮新館興建完成，自此持續擴充典藏領域，積極購藏書畫作品，並且接受社會各界之捐贈、寄存託管等，近幾十餘年來累計達約 7800 多件。新添藏品拓展了原有收藏範圍，收藏方向主要有三：（一）散佚民間的清宮舊藏。（二）院藏原本較爲匱乏的明末遺民作品。（三）清代中葉以來的近現代書畫名跡。此報告即擬以第三項之新添藏的近現代書畫，包含收藏之歷史背景、原藏家之淵源以及藏品特色等方面進行陳述。

1925 年に成立した国立故宮博物院は清朝の宮廷コレクションを継承しており、その名品の多くは乾隆朝（1736-1795）に収集された。その後、国民党政権が台湾に移る 1949 年までは、転変の時代ゆえに、コレクションの数が増えることはなかった。1965 年、台北の外双溪に故宮の新館が完成すると、コレクションの量的な拡大が始まった。積極的に書画作品を購入したほか、各界の寄贈・寄託などを受けて、特にこの数十年ほどで故宮のコレクションは 7800 件余に達した。新たなコレクションは従来のコレクションの領域を広げるもので、その傾向は大きく三つに分けることができる。（一）民間に散逸していた清朝宮廷の旧蔵品、（二）故宮にはあまり所蔵されていなかった明末遺民画家の作品、（三）清朝中期以降の近現代書画。本発表ではこの内、三番目に挙げた近現代書画を取り上げ、コレクションの歴史的背景、旧蔵者、作品の特色などについて論じてみたい。

從文物館藏品管窺近代香港書畫收藏的淵源—以簡氏斑園與利氏北山堂爲例

[文物館の収蔵品に見る香港の中国書画コレクション—簡氏斑園と利氏北山堂を例に]

李志綱 (香港中文大學文物館)

香港自從 1842 年由英國管治，逐漸發展成國際都市，特殊的政治地位持續至二十世紀末。「斑園」收藏建立於二十世紀前期。1937 年，中日戰事爆發，大批書畫從大陸流到香港。1949 年，中國共產黨建國，許多藏家紛紛移居香港，這城市中藏品因此大幅增長。1950 年代之後，中國國民出入境受到管制，但在政局長年動亂之下，仍有大量文物散出國外，香港再次成爲書畫流轉的驛站。「北山堂」收藏的形成，可反映二十世紀後期的概況。香港中文大學文物館所收「斑園」與「北山堂」舊藏書畫，合共約 2000 件。對兩批藏品歷史的回顧，足以窺探近代香港書畫收藏的源流。

香港は、1842 年からの英国統治により国際都市へと発展し、植民地というこの特殊な国際社会での地位は 20 世紀末まで続いた。本発表で取り上げる「斑園」コレクションは 20 世紀前半に成立したコレクションである。1937 年の日中戦争勃発は、大量の書画を中国大陆から香港へ流出する契機となった。さらに 1949 年、中国共産党により中華人民共和国が建国されると、多くのコレクターが次々と香港に移住し、これによりこの都市の中国書画の数量も大幅に増加した。1950 年代以降になると、

中国国民の出入国には規制が設けられたが、長期にわたる政治的混乱の中で、多くの美術品が国外に流出し、香港は再び書画流通の拠点となった。もう一つの「北山堂」コレクションの形成は、このような 20 世紀後半の状況を反映するものである。現在、香港中文大学文物館が所蔵する「斑園」、「北山堂」旧蔵書画は、併せて 2000 件にのぼる。この二大コレクションの歴史を振り返りつつ、近代香港書画コレクションの源流を探ってみたい。

特別講演 收藏家的責任—我的中國書畫收藏歷程 [收藏家の責任—私の中国書画收藏の道のり]

石允文 (中国書画收藏家)

パネル 4 欧米に広がる中国書画コレクション

John C. Ferguson (福開森) and His Short-Term Success as a Buyer of Chinese Paintings for American Museums, 1912-1917

[アメリカの美術館の中国絵画収集におけるジョン・C・ファーガソンの活躍]

Lara Netting (メトロポリタン美術館)

John Ferguson 福開森 (1866-1945), a native Canadian and a long-term resident of China, is well known as a collector and scholar of Chinese art. His role as a buyer of paintings, for The Metropolitan Museum of Art and other institutions, is less well understood. Ferguson, I argue, was a dealer who helped American museums to make their first significant acquisitions of Chinese paintings in the 1910s. Based on archival research, this study examines the Chinese and Manchu collectors/dealers who offered paintings to Ferguson in Peking, and Ferguson's promotion and sale of these pieces in the United States. Ferguson entered into the art trade shortly after 1911, when his Qing government employment was terminated, and he enjoyed success until 1917, when political work crowded art from his attention. Ferguson's early hustle in the art business adds depth and human detail to the history of Chinese art collecting in United States.

ジョン・ファーガソン (福開森、1866-1945) はカナダに生まれ、長期にわたり中国に滞在した人物で、中国美術のコレクターそして研究者として有名である。しかしその一方で彼がメトロポリタン美術館やその他の美術館が絵画を購入する際の窓口であったという事実は、あまり知られていないようだ。ファーガソンは 1910 年代、アメリカの美術館が初期の重要な中国絵画コレクションを形成するのに、ディーラーとして大きな役割を果たした。本発表では、文献資料に基づき、北京でファーガソンに絵画を売った中国の漢族や満州族のコレクターやディーラーたちと、それをさらにアメリカに売り込んだファーガソンの活動を検証する。ファーガソンは 1911 年、清朝政府との雇用契約が切れた直後から美術品市場に参入し、政治的な業務で多忙となる 1917 年までその成功を享受した。彼の

美術品ビジネスにおける精力的な活動は、アメリカにおける中国美術収集史に新たな一面と一個人の足跡を刻んだのである。

柏林的中国繪畫收藏—過去、現在與未來 [ベルリンの中国絵画コレクション—過去、現在、未来]

王静靈 (ベルリン自由大学)

本文分爲三個部份。首先討論柏林亞洲藝術博物館(Museum für Asiatische Kunst/ Asian Art Museum)中國繪畫的收藏成立的歷史，聚焦於首任館長 Otto Kümmel (1874-1952) 的博物館生涯、他如何學會鑑賞中國繪畫並建立其鑑賞品味的以及該館中国絵画收藏的成立過程。作爲首任館長，Otto Kümmel 不僅建立了柏林博物館的東亞藝術收藏，還爲該館接下來一百多年的收藏體系樹立了一個典範性的美學標準。其次耙梳該館在二次世界大戰之後迄今的收藏狀況。最後從東亞藝術史學科發展史的角度對於柏林亞洲藝術博物館在目前於柏林國立博物館群 (Staatliche Museen zu Berlin/ National Museums in Berlin) 積極籌劃的大型博物館收藏與建造計畫—洪堡論壇 (Humboldt-forum) 中所扮演的角色提出批判性的觀察和看法。

本発表では以下の三つの問題を取り上げたい。最初に、ベルリン国立アジア美術館における中国絵画コレクション成立の歴史を論ずる。特に、初代館長のオットー・キュンメル (1874-1952) の在職期間に焦点を当て、彼がどのように中国絵画の鑑賞方法を学び、彼個人の鑑識眼を育てたかについて、さらにアジア美術館の中国絵画コレクションの成立過程について考察する。初代館長として、オットー・キュンメルはベルリンの東アジア美術コレクションを成立させただけでなく、その後百年以上も続く体系的な収集において典範となる美学の基準を確立させたのである。次に、第二次世界大戦後から現在にいたる、アジア美術館の収集過程を概観する。最後に、東アジア美術史学の歴史を踏まえつつ、現在ベルリンの美術館・博物館群が積極的に推進している「フンボルト・フォーラム」(新しい複合文化施設建設計画) における、ベルリン国立アジア美術館の役割について考察を行いたい。

パネル5 名品が語る中国書画コレクション

収蔵来歴からみた (伝) 董源「寒林重汀図」の史的意義

竹浪遠 (黒川古文化研究所)

「寒林重汀図」(黒川古文化研究所) は、五代の江南山水画の大家・董源の作風を伝える最優作の一つとして広く知られている。発表者は、本図の描写内容と表現技法を中心に位置づけを行ったことがあるが、今回は収蔵来歴に関する情報から、その歴史的な意義を考察してみたい。鑑蔵印には南宋・理宗朝の「緝熙殿宝」、元の殿閣印「宣文閣宝」等があり、董其昌の題字や清の端方等の識語も備わっている。大正の末に博文堂を介して日本にもたらされ、内藤湖南の箱書きを得て、出版物にも掲載されていく。このように、本図の来歴を示す資料は、鑑蔵印、題識、箱書き、近世の出版物など、種類も時間も多岐にわたっている。それらの事象を検討することで、その歴史的な意味や影響を考察し、伝来から見た作品研究の可能性を提示したい。

明治後半、日本人はようやく八大山人の本格的な作品に触れることとなった。いち早く注目したのは大正期の表現主義の芸術家たちで、彼らは造形に強い関心を持ち、印象派との共通性を見いだした。戦後になると、作家や批評家の言及も頻繁になり、八大山人の明遺民としての苛烈な境遇を作品に重ね、心理や精神状態を読み解く傾向が強まったが、それは出版・展覧の機会増加、伝記の解明などにも相関する。本発表ではまずこのような日本近代における八大山人の評価の変遷について、芸術や文化の動向とあわせて考察、そのなかで卓抜した優品とされた「安晩帖」(泉屋博古館)の役割などを検証する。ついで平成 23 年に行ったデジタル高精細撮影の拡大画像によって、さらなる作品理解への可能性をあわせて模索したい。